

まごころふれあいまつりにご参加いただいた利用者さんからのお手紙～

今回のふれあいイベントに参加させていただき、有りがたく感謝致しております。それは写真の部に出品させていただいた事です。

僕の「生きた証として何かの行動を」その意をくんでいただいた気持ちで一杯です。会場内での会食で、会員の皆さんと同じテーブルに付かせてもらえた事も感謝です。その席でのカメラシャッターにスタッフの方に快く応じていただきました。その事も感謝です。

「どん舞」さんの太鼓の音、心に響いております。テレビ放送でのヨサコイ祭り等良く観ます。ビデオにも何本か録画しています。あのリズムが好きなんでしょうね。

ここ一宮に来て、22 年になります。ある会社で 16 年間働きました。その間、標語募集が年に 3～4 回有り、それに毎回応募してきました。数えると 100 近く出していると思いますが、その大半を忘れています。その中で、一つだけ覚えている標語があります。それを今日は紹介してみたいと思います。

Peace and circle
(ピース) (アンド) (サークル)
和 の 輪

今後とも宜しく願い申し上げます。先ずはお礼まで

上鍋利行



研修報告～

『若年性認知症の実態と社会的支援』

▼若年性認知症について

64 才以下の「認知症」を「若年性認知症」と言い、高齢者の場合と違い仕事に対し現役世代であるために、発病によって 70% 近くの方が失職してしまうという現実があります。そのため経済的困窮に陥ったり、家族の人生にまで左右される問題が起きたりして、本人及び家族の心理的負担がとて大きな点があります。

▼現状の社会支援

授産施設における若年性認知症と精神障がい者との比較で、両者の共通点として、後天性の疾患障がいであること、今の自分に自信が持ちにくいこと、病気の受容・現実検討が困難なことが挙げられます。支援の基本的視点として「今の受容」と「自信の回復」を目標にケアを行う必要があります。

ただし、障がいの相違点から、精神障がいの方の場合は、自立を目的に意図的に責任を課すこと。(例えば、出勤簿の記入や行事参加の申込み等、自己責任で行ってもらう) 若年性認知症の方の場合は、責任が課せられないので、繰り返し声をかけて確認させる支援が必要です。施設では柔軟な個別対応が課題になっているようで、認知症の特性や個人の特性を深く理解して対応することが大切であると思いました。

若年性認知症電話無料相談
0800-100-2707



◆児童デイの移転延期のお知らせ 児童デイ開始は1月4日予定

12 月に開始予定で計画を進めておりましたが、工事期間の都合等で、児童デイの開始を順延させていただくこととなりました。

関係者の方々にはご迷惑をおかけしまして大変申し訳ございません。

ミニデイだよ!

あのときは・・・



ふれあいまつりも無事終わり、日に日に寒くなってきました。食後の散歩は「どうしようかねえ・・・寒そうだねえ・・・」とお部屋の中で過ごす時間が長くなってきています。

そんな中、みなさんに昔住んでいた家(外観・間取り)を描いていただくことになりました。すらすらと紙いっぱい描かれて、庭の様子や、外の道路を走る自転車も描いてくださった方もみえました。その絵を見せ合いながら、「あのときはお転婆だったから、屋根に飛び乗っていたわ。」「あのときは井戸で水を釣瓶で汲んでたなあ」「あのときは・・・あのときは・・・」とみなさん目を輝かせて説明してくださいました。またお手玉遊びの歌(♪一番はじめはいちのみや～)を披露して下さる方もみえました。利用者さんだけでなく、スタッフも「あのときは・・・」と話の絶えない 1 日を過ごしました。



心っれづれ



師走を迎えて

もう今年も 12 月に入り、過ぎゆく時の速さを感じます。12 月は 1 年の締めくくりの月...あと 1 ヶ月で今年も無事に終えるという安堵感、またそれとは裏腹に元旦に立てた 1 年の計は成し遂げただろうかと...

私のやり残したこと、それは物の整理です。物の整理があまり得意とはいえない私ですが先日「断捨離」という本に出会いました。

「断捨離」とは単なる片付けではなく、モノを通して自分と向き合い心地よく生きるための実践法、モノを捨てることは今の自分にとってそのモノが必要かどうか、モノと自分の関係を問い直すこと、絶えず自分で決断する作業を繰り返すことで人生や人間関係も自分で選べるようになっていくそうです。

「断」とは、入ってくるモノを断つこと。「捨」とは、不要なモノを捨てること。「離」とは、モノへの執着から離れた清々しい状態のことだそうです。

私自身、服をはじめ、色々なモノを捨てるのは勿体ない、またいつか使う筈と取っておきながらなかなか使わないのにもかかわらず捨てることができずにいました。でもこの本に出会い、早速「断捨離」法を実行しているところです。

不要なモノを捨て、スッキリした気持ちで新しい年が迎えられるように!

協力会員 栗原悦子(ワーカ―理事)

